

中央エリア整備の実施設計概要

令和8年1月

小平市

目次

1.中央エリア整備の考え方	P.2	13.シビック・サイト計画（複合施設内装）	P.16
2.計画概要	P.3	14.ユニバーサルデザイン計画	P.17
3.設計コンセプト	P.4	15.サイン計画	P.18
4.複合施設配置計画	P.4	16.バリアフリー機能	P.19
5.全体配置計画	P.5	17.構造計画	P.20
6.シビック・サイト計画（たかの街道沿い）	P.6	18.環境計画	P.21
7.シビック・サイト計画（敷地内）	P.7	19.防災計画（災害対策）	P.22
8.シビック・サイト計画（東側道路沿い）	P.8	20.電気設備計画	P.23
9.シビック・サイト計画（複合施設平面図）	P.9	21.機械設備計画	P.24
10.シビック・サイト計画（複合施設断面図）	P.12	22.パーク・サイト計画	P.25
11.シビック・サイト計画（複合施設立面図）	P.13	23.カルチャー・サイト計画	P.26
12.シビック・サイト計画（複合施設外観）	P.15		

1.中央エリア整備の考え方

■中央エリアの整備とは

小平市では、老朽化が進む「中央公民館」「健康福祉事務センター」「福祉会館」の3つの施設を複合化して建て替えることを計画しています。

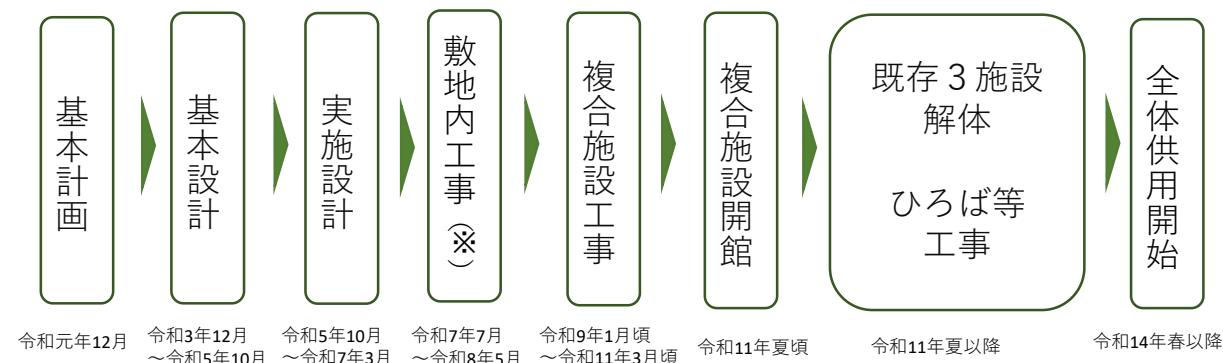
あわせて、3つの施設の跡地を「ひろば」などとし、一体的に整備することで、市役所周辺の「中央エリア」について、憩いの場、市民の皆さまの交流をつくりだす場とすることを目指しています。

■これまでの経緯と今後の進め方

小平市では、令和元年12月に「中央公民館、健康福祉事務センター及び福祉会館の更新等に関する基本計画」を策定し、令和3年12月から令和7年3月にかけて、株式会社隈研吾建築都市設計事務所に委託して設計を行ってきました。

今後、令和7年3月に作成された実施設計に基づき、工事を進めてまいります。これまでの経緯と想定している今後のスケジュールは以下のとおりです。

(現時点での最短の想定であり、変更の可能性もあります。)



※福祉会館及び健康センター敷地内における給排水及び電気設備の配管経路変更等の工事

■整備における配慮視点

以下の視点についても配慮しながら、整備を行います。

- ①誰もが利用しやすく心地よいと感じる、バリアフリーやユニバーサルデザインに配慮した施設にします。
- ②施設の建設、運用、廃棄に至るまでの一連の過程において、エネルギーの使用量を低減するなど、環境に配慮した施設にします。
- ③地域防災計画で求められる防災機能の確保に努めるなど、防災力の向上に配慮した施設にします。

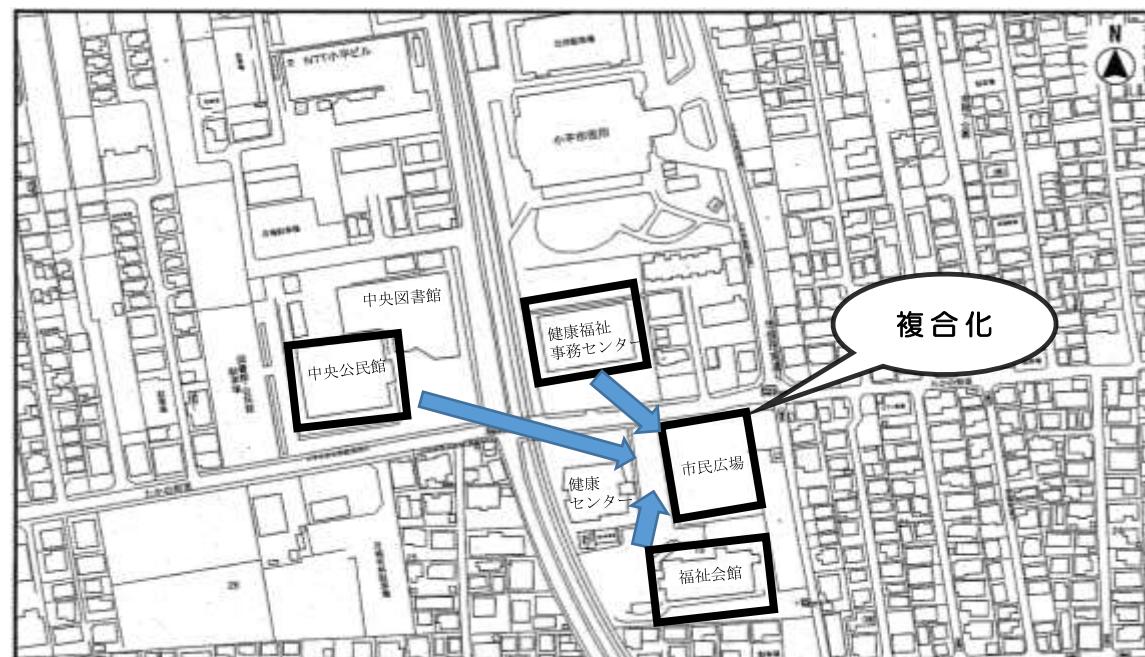
■複合化について

健康福祉事務センターと福祉会館は広域対応施設（市内全域及び市外からの利用を前提とした施設）であり、中央公民館も全市的な利用があることから、引き続き中央エリアにあることが多くの市民の利便性に繋がるものと考えました。

また、健康福祉事務センターと中央公民館は既に目標耐用年数が到来、福祉会館も令和12年に到来するところであり、設備の老朽化も進んでいます。

これらのことから、3つの施設を複合化し、福祉会館前市民広場に新たな複合施設を整備することとしました。

なお、隣接する中央図書館や健康センターについては、目標耐用年数の満了まで相当期間があることや、福祉会館前市民広場の敷地に関する制約があることから、複合化の対象とはしないこととしました。



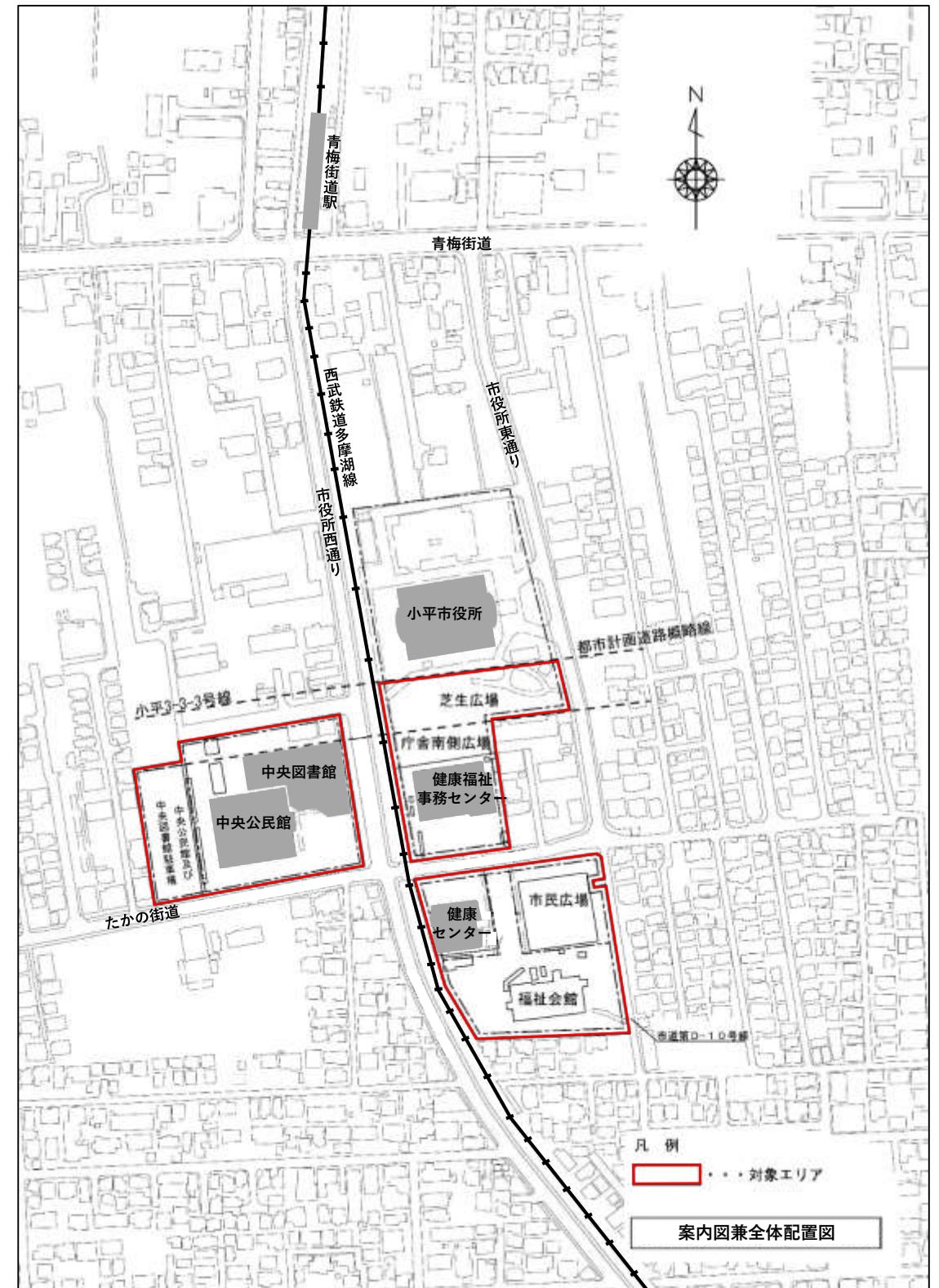
2.計画概要

敷地概要

計画地	小平市学園東町1767-1 ほか
敷地面積	10,203.18㎡ (複合施設敷地：8521.08㎡、健康センター敷地：1682.10㎡)
用途地域	第二種住居地域
防火指定	準防火地域
高度地区	2.5m第二種高度地区
日影規制	4H/2.5H (GL+4m)
指定建蔽率	60%
指定容積率	200%

計画建物概要

建築面積	3,456.51㎡ (複合施設：2,704.14㎡、健康センター：752.37㎡)	(建蔽率 33.88%)
延床面積 (容積対象)	11,073.82㎡ (複合施設：7,553.51㎡ 庇等：273.63㎡ 倉庫・ごみ置場：22㎡ 健康センター：3,224.68㎡)	(容積率 108.53%)
延床面積	11,647.53㎡ (複合施設：7,685.56㎡ 庇等：273.63㎡ 駐輪場屋根等：328.78㎡ 健康センター：3,259.48㎡)	
階数	地上6階	
構造	鉄骨造	
基礎形状	杭基礎	
建物高さ	24.1m	



3.設計コンセプト

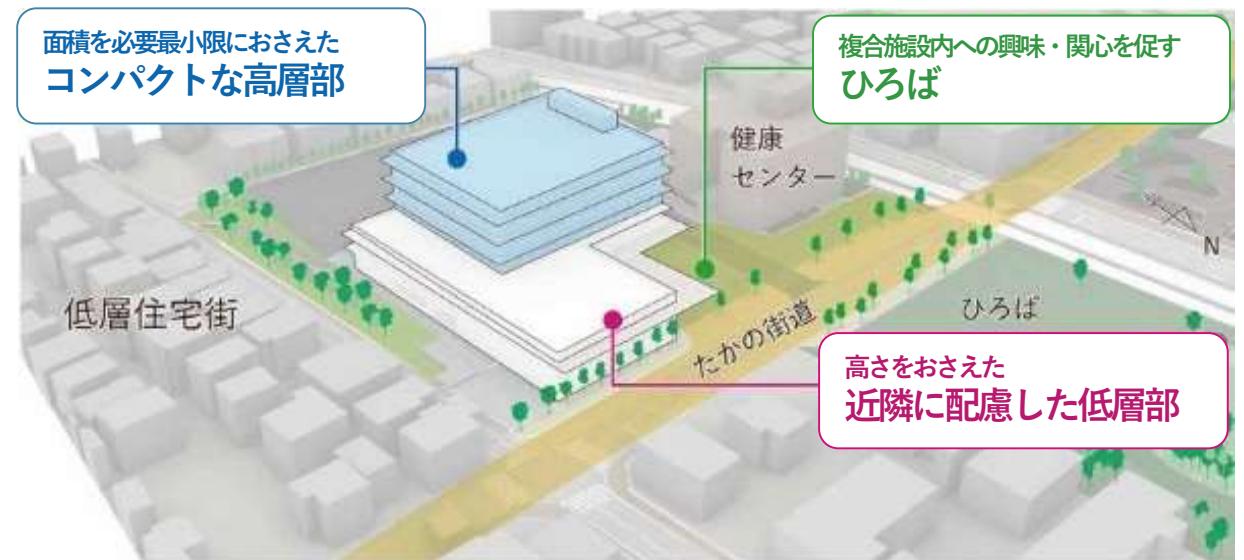


憩いの場、市民の皆さまの交流をつくりだす場



木目のデザインを施したアルミ製のルーバーによる屋敷森をイメージした景観と調和する外観

4.複合施設配置計画



- ・複合施設内への興味・関心を促す、ひろばに開いたL字配置とします。
- ・周囲に住宅地が隣接しているため、低層部と高層部を組み合わせ、ボリューム感や高さを抑えたデザインとします。
- ・低層部の1、2階には全ての利用者に向けた、生涯学習・集会室機能を設けます。
- ・高層部の4、5階にはプライバシーの確保、雑音の少ない相談しやすい環境等、様々な観点に配慮し、福祉事務機能を設けます。

	屋外機器置場	6F	
	福祉事務機能	5F	
	福祉事務機能	4F	
	屋外機器置場	行政機能	3F
	生涯学習・集会室機能、フリースペース		2F
ひろば	生涯学習・集会室機能、フリースペース、キッズスペース		1F 車寄せ

5.全体配置計画

- ・中央エリアに点在している行政機能等をエリアとして一体的に捉えなおし、憩いの場、市民同士の交流をつくりだすことを目指します。
- ・特徴ある三つのエリア『カルチャー・サイト』『パーク・サイト』『シビック・サイト』を整備します。
- ・各サイトに憩いの場をつくることにより、市民がくつろぎ、滞在し、各々の既存の施設等の利用者同士、また新たな利用者との交流を広げていくことを目指します。
- ・エリア内に複数のひろばを配置し「滞在したくなる空間」、たかの街道沿いの歩道を拡げ「歩きたくなる空間」を創出します。

＜パーク・サイトの一部計画変更について＞
 事業費の高騰を踏まえ、パーク・サイトに予定していた別棟建設は中止します。基本計画や、これまでいただいたご意見等も踏まえて、交流とにぎわいのエリアになるよう整備案を検討していきます。



6.シビック・サイト計画（たかの街道沿い）

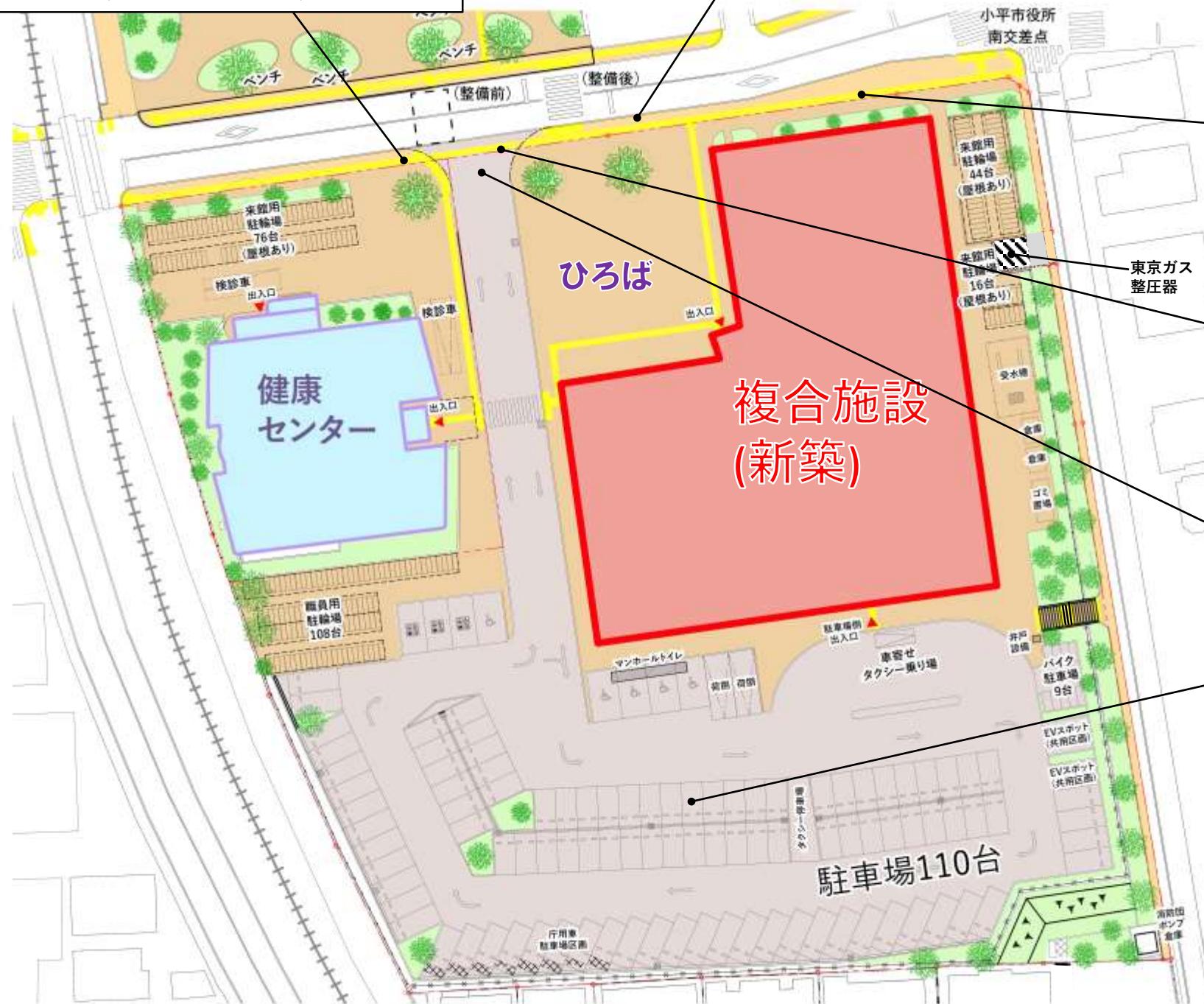
①横断歩道と歩道の接続部の勾配がなるべく緩やかになるように、歩道の高さを低くします。（セミフラット形式）

②たかの街道の歩道と複合施設や健康センターの敷地は段差をなくし、歩きやすい空間とします。

③誘導ブロックを、小平市役所南交差点から複合施設や健康センターまで敷設します。また、視覚障がい者が安全に通行できるよう通路の幅を確保します。

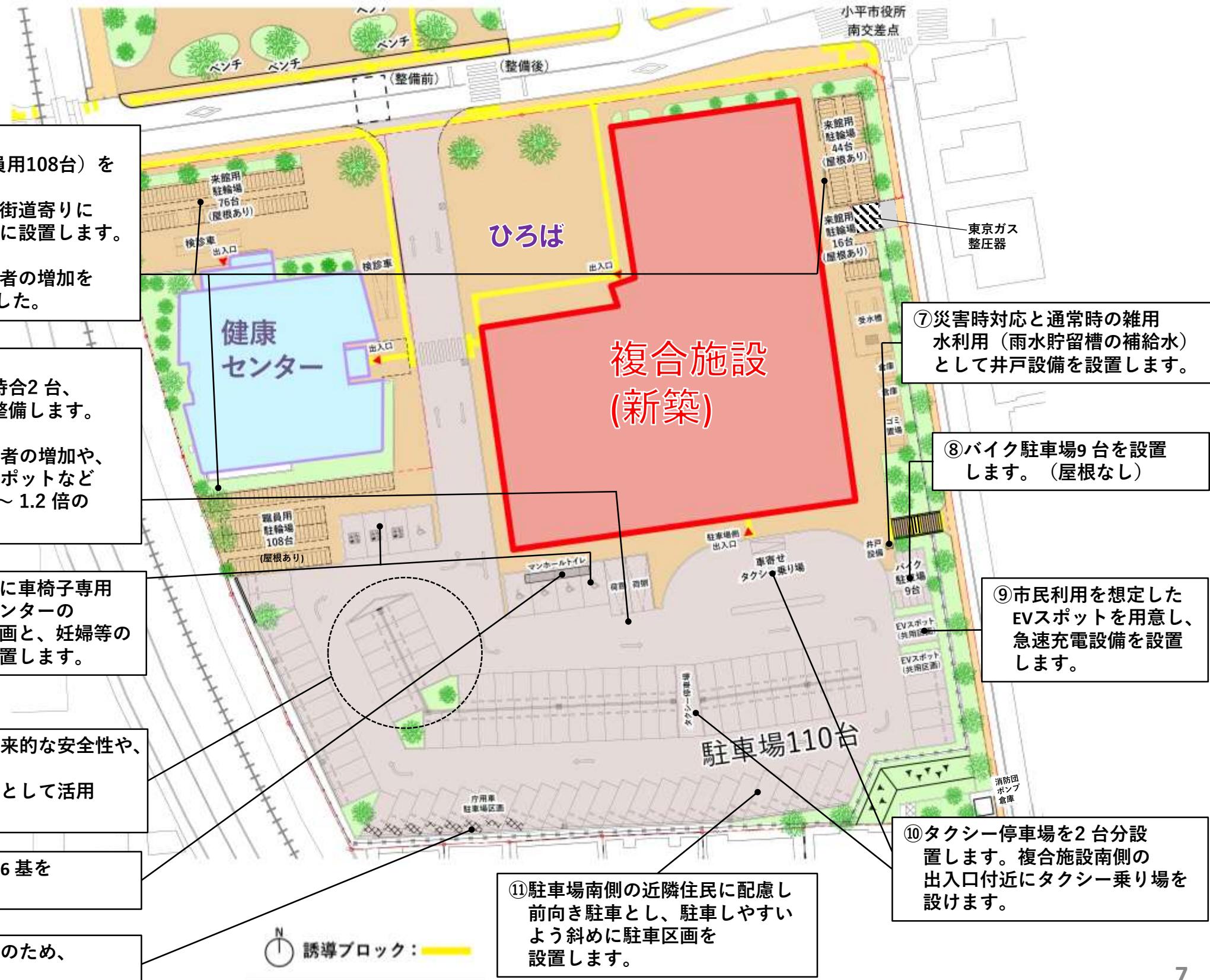
④駐車場出入口について、現在は歩道が車路の部分で途切れていますが、歩行者の安全確保のため、歩道を連続して整備し、車両は歩道を横切るような形で出入りします。

⑤駐車場を敷地南側に設けることで、出入口付近の車の滞留をなくします。また、出入口の車路の幅（間口）を広く確保することで、出入りをしやすくします。



誘導ブロック：

7.シビック・サイト計画（敷地内）



①駐輪場台数等
 駐輪場は244台（来館者用136台、職員用108台）を整備します。（屋根あり）
 来館者用を利便性の高い北側のたかの街道寄りに配置し、職員用は健康センターの南側に設置します。
 <検討経緯>
 利用状況の調査をもとに、将来の利用者の増加を見込み1.1～1.2倍の目標台数としました。

②駐車場台数等
 駐車場には市民利用98台、タクシー待合2台、荷捌き2台、庁用車8台の計110台を整備します。
 <検討経緯>
 利用状況の調査をもとに、将来の利用者の増加や、荷捌きスペース、電気自動車の充電スポットなど必要となる駐車スペースを見込み1.1～1.2倍の目標台数としました。

③複合施設の駐車場側出入口に近い位置に車椅子専用駐車区画を設置します。また、健康センターの出入口に近い位置に車椅子専用駐車区画と、妊婦等の利用を想定し、思いやり駐車区画を設置します。

④現福祉会館入口前のケヤキの木は、将来的な安全性や、駐車場台数の確保のため伐採します。
 なお、複合施設の整備において、資材として活用します。

⑤災害時対応のため、マンホールトイレ6基を設置します。

⑥駐車場南側や東側の近隣住民への配慮のため、目隠しフェンスを設置します。

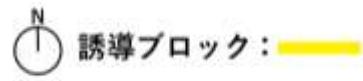
⑦災害時対応と通常時の雑用水利用（雨水貯留槽の補給水）として井戸設備を設置します。

⑧バイク駐車場9台を設置します。（屋根なし）

⑨市民利用を想定したEVスポットを用意し、急速充電設備を設置します。

⑩タクシー停車場を2台分設置します。複合施設南側の出入口付近にタクシー乗り場を設けます。

⑪駐車場南側の近隣住民に配慮し前向き駐車とし、駐車しやすいよう斜めに駐車区画を設置します。



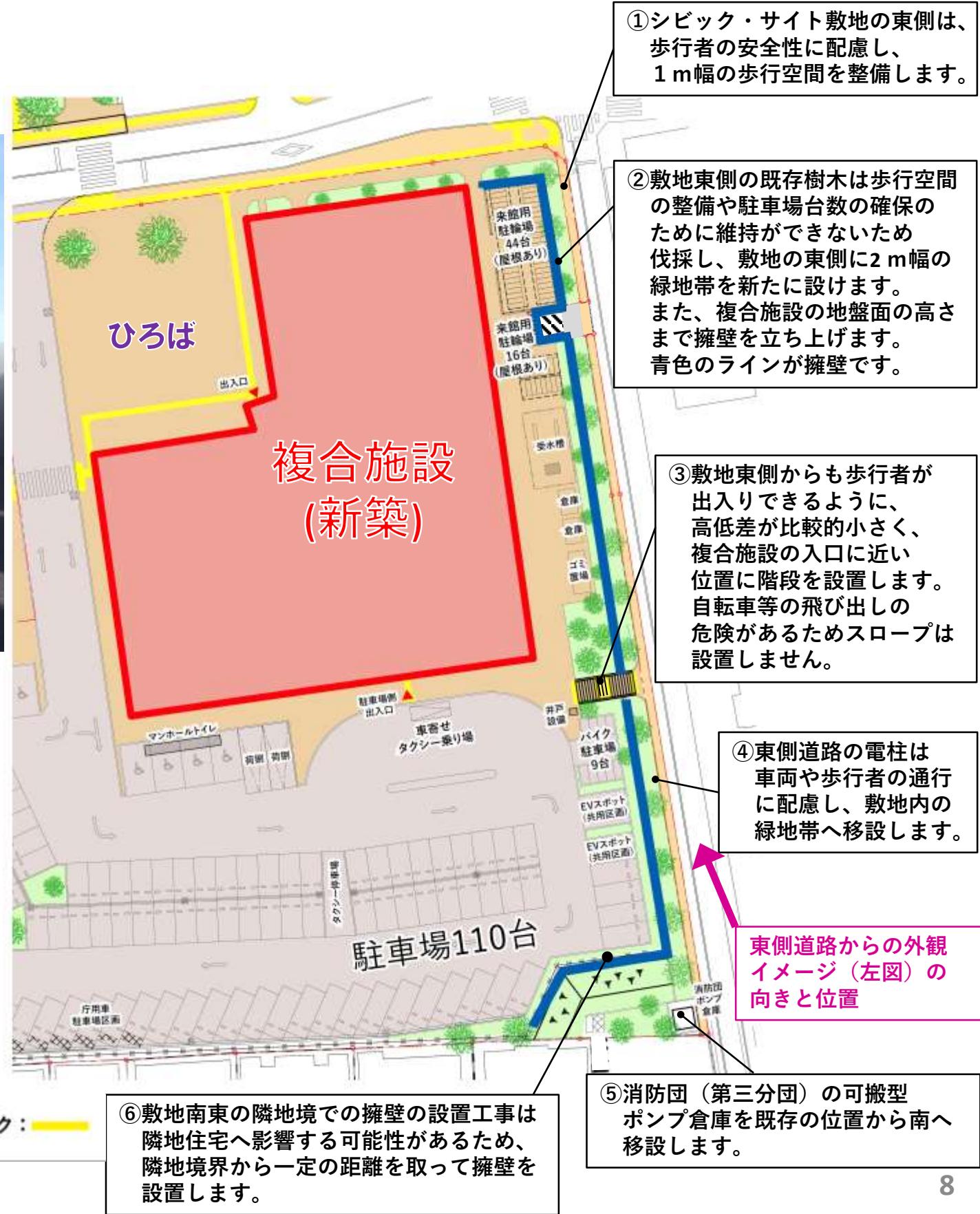
8.シビック・サイト計画（東側道路沿い）

東側道路からの外観イメージ

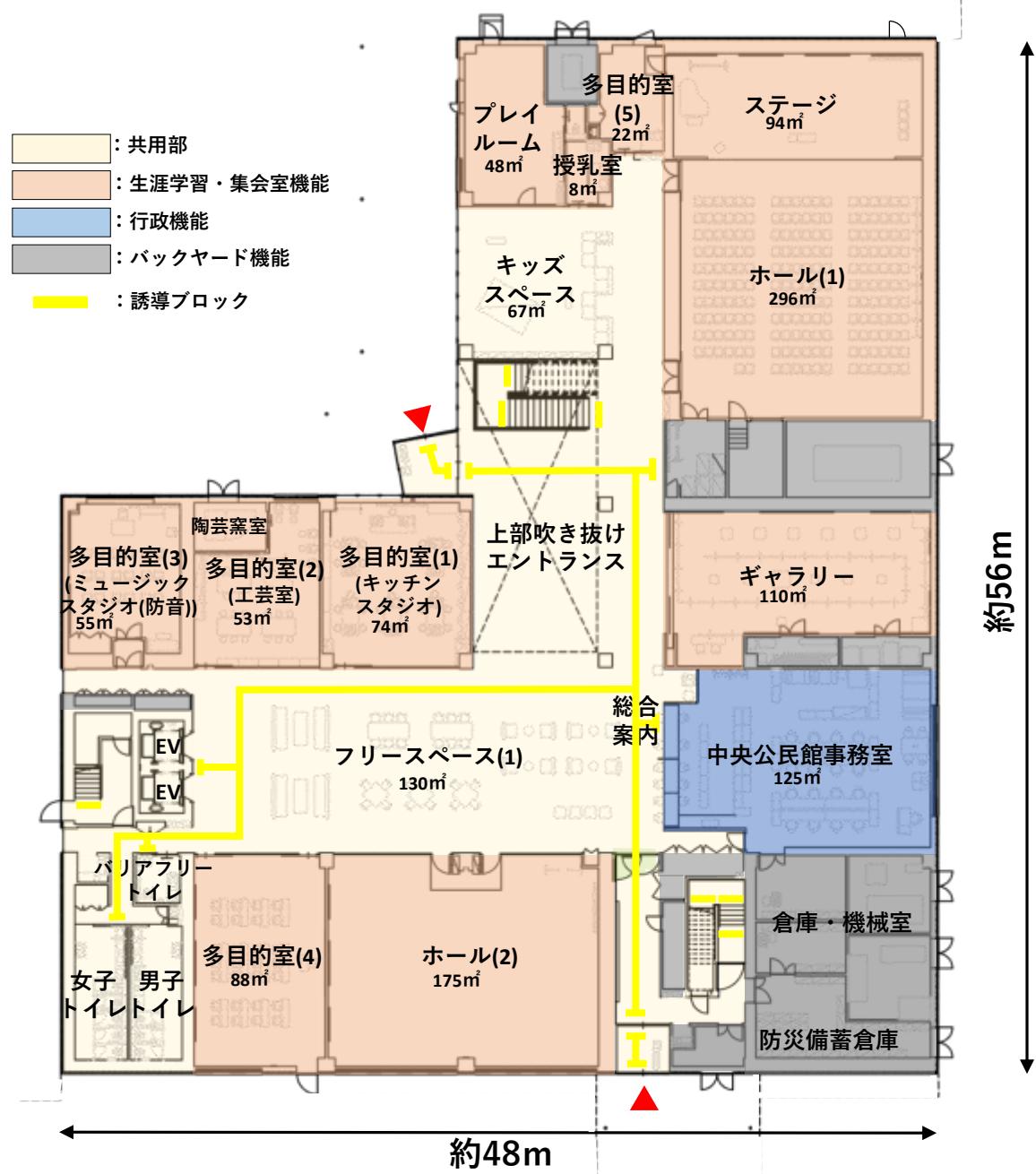


東側道路は南側に向かって下り坂となっているため、擁壁の高さは北側が低くおおむね1 m、敷地南東部が最大でおおむね3.5 mになります。

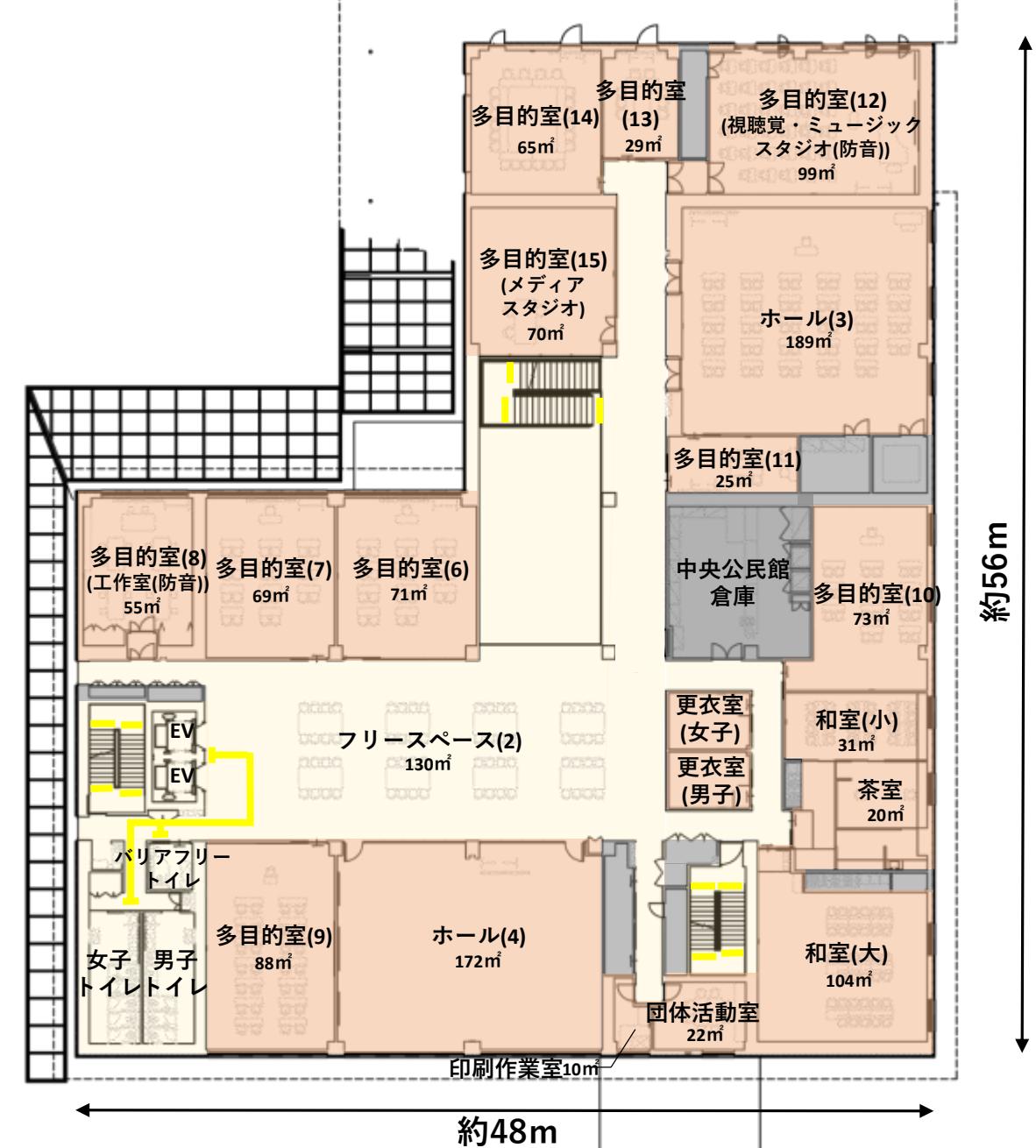
※電柱、道路標識、街路灯などはイメージ図であるため、表示していません。



9.シビック・サイト計画（複合施設平面図）



1F：生涯学習・集会室機能（延床面積：2107.13㎡）



2F：生涯学習・集会室機能（延床面積：2012.08㎡）

平面計画

- ・出入口は敷地北側の歩道と南側駐車場から直線でアクセスしやすい場所に配置します。
- ・総合案内及び中央公民館事務室を、出入口から目視しやすい位置に配置することで分かりやすい誘導をするとともに、防犯にも配慮します。
- ・フリースペースを立ち寄りやすい1、2階の中心に配置することで、様々な人や世代が気軽に集い交流する場を創出します。フリースペースは打合せ、休憩、飲食、学生が勉強する場などに活用できるようにします。
- ・市民活動に対する興味・関心を持ってもらえるよう、1、2階にはガラス張りを多く取り入れ、屋外のひろばや建物内のフリースペースから各室内の活動が見えるようにします。市民意見も踏まえ、ガラス張りにしない部屋も一部配置し、ガラス張りの部屋についてもブラインド等を設置することで、プライバシーにも配慮した利用もできるようにします。

（1階）

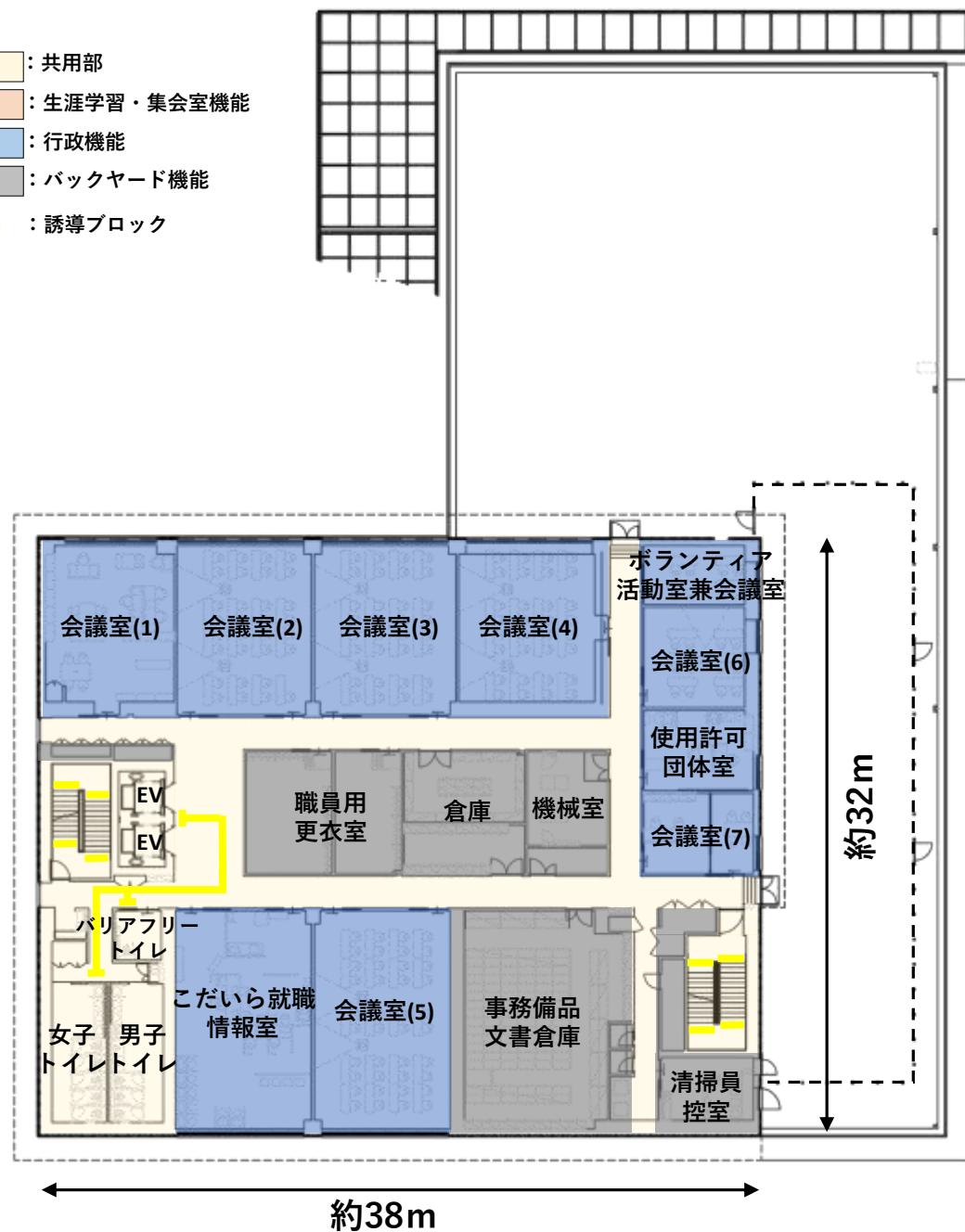
- ・ホール、工芸室、キッチンスタジオなどの動きのある活動を行う部屋を中心に配置します。
- ・キッズスペースをエントランス近くに配置することで、健康センターやひろば等を利用する子育て世代にも魅力的で使いやすい施設とします。
- ・ギャラリーは多くの人の目に触れて立ち寄りやすいエントランス付近に配置にします。

（2階）

- ・大小さまざまな多目的室を設けることで、効率的な利用ができるようにします。
- ・視聴覚室・ミュージックスタジオや工作室は音が出る活動が想定されるため、遮音壁による防音対策をします。
- ・和室は現在中央公民館で使用しているレイアウトと同様とし、活動のしやすさ・利用者の使い勝手に配慮します。

9.シビック・サイト計画（複合施設平面図）

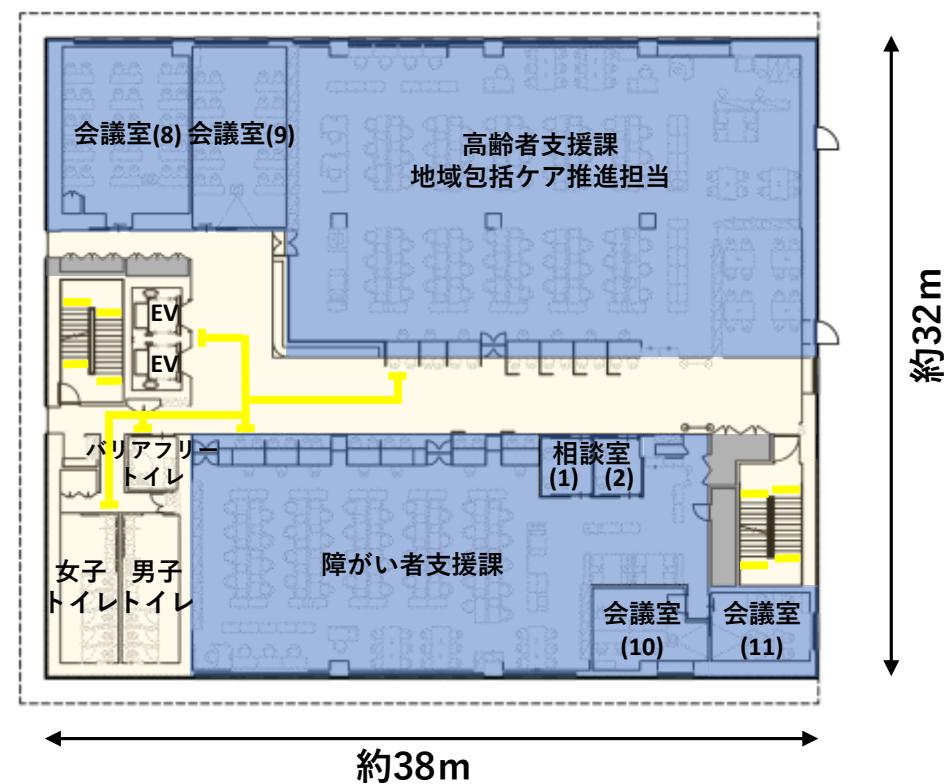
- : 共用部
- : 生涯学習・集会室機能
- : 行政機能
- : バックヤード機能
- : 誘導ブロック



3F：行政機能（延床面積：1164.37㎡）

（3階）

- ・ 3階は複合施設内の行政機能の会議室や倉庫を設置し、1、2階と4、5階の音の伝わりを抑える緩衝フロアとして計画します。
- ・ 市民が利用するこだいら就職情報室は、アクセスしやすいエレベーター付近に配置します。



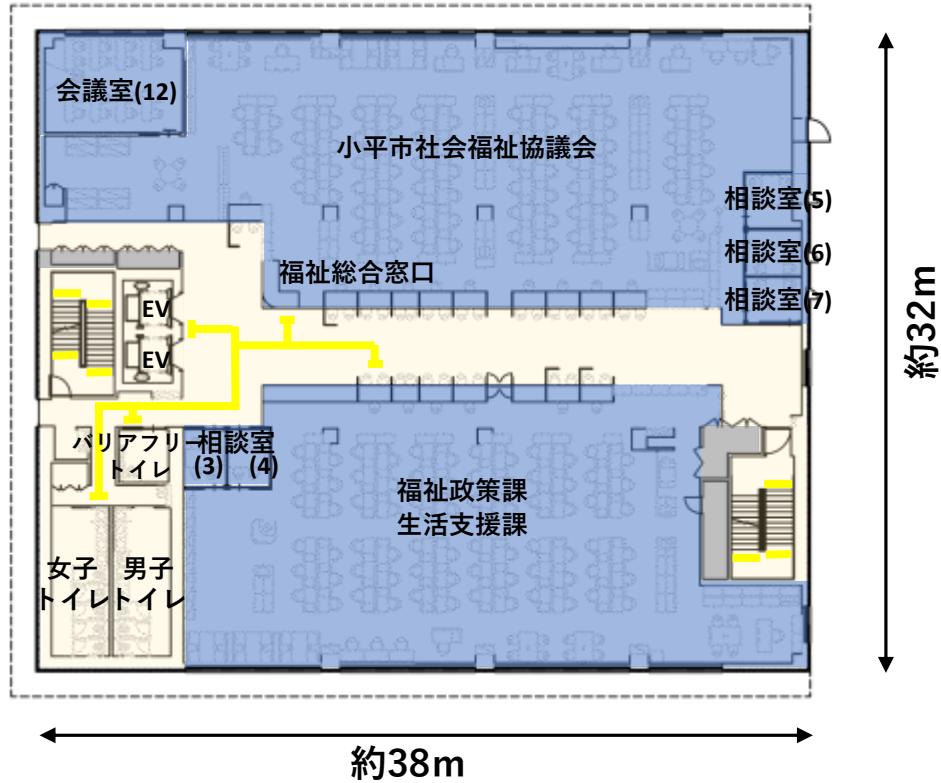
4F：福祉事務機能（延床面積：1164.37㎡）

（4階）

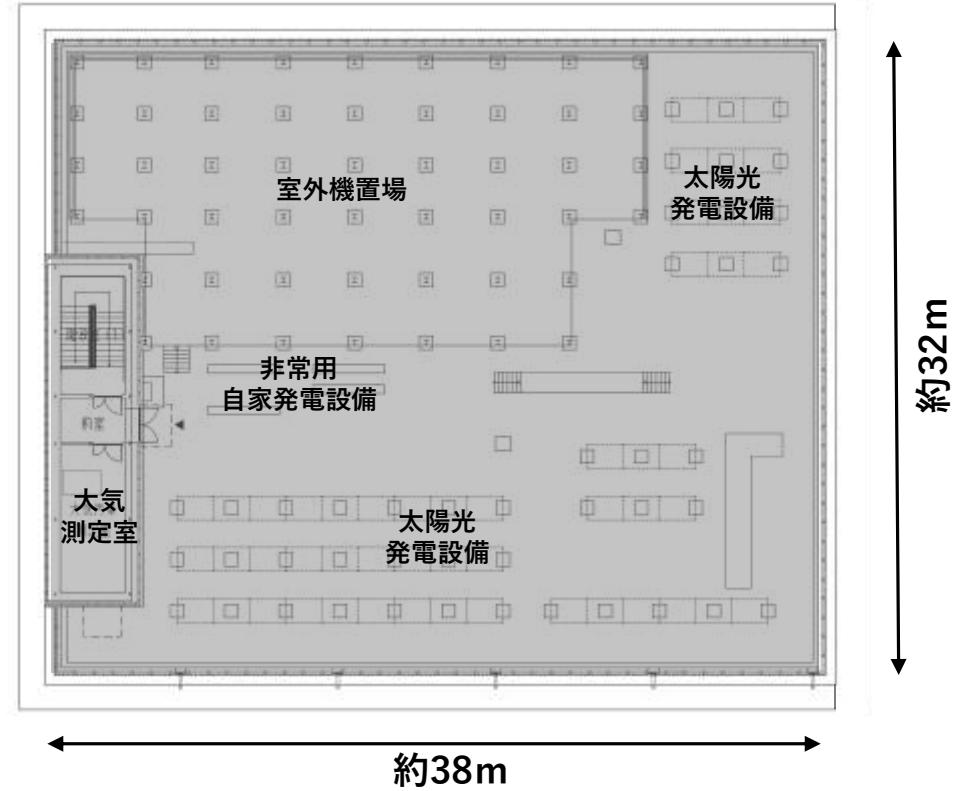
- ・ 4階には福祉事務機能を設け、利用者のプライバシー確保や、相談しやすい静かで落ち着いた環境とします。
- ・ エレベーターから直線上に廊下を配置してフロア全体を見渡せるようにするとともに、わかりやすいサイン表示にすることにより、迷うことなく目的の窓口が把握できるようにします。
- ・ 執務空間は柱を少なくすることでレイアウト変更を行いやすい計画とします。

9.シビック・サイト計画（複合施設平面図）

- : 共用部
- : 生涯学習・集会室機能
- : 行政機能
- : バックヤード機能
- : 誘導ブロック



5F：福祉事務機能（延床面積：1164.37㎡）



6F：屋上（延床面積：73.24㎡）

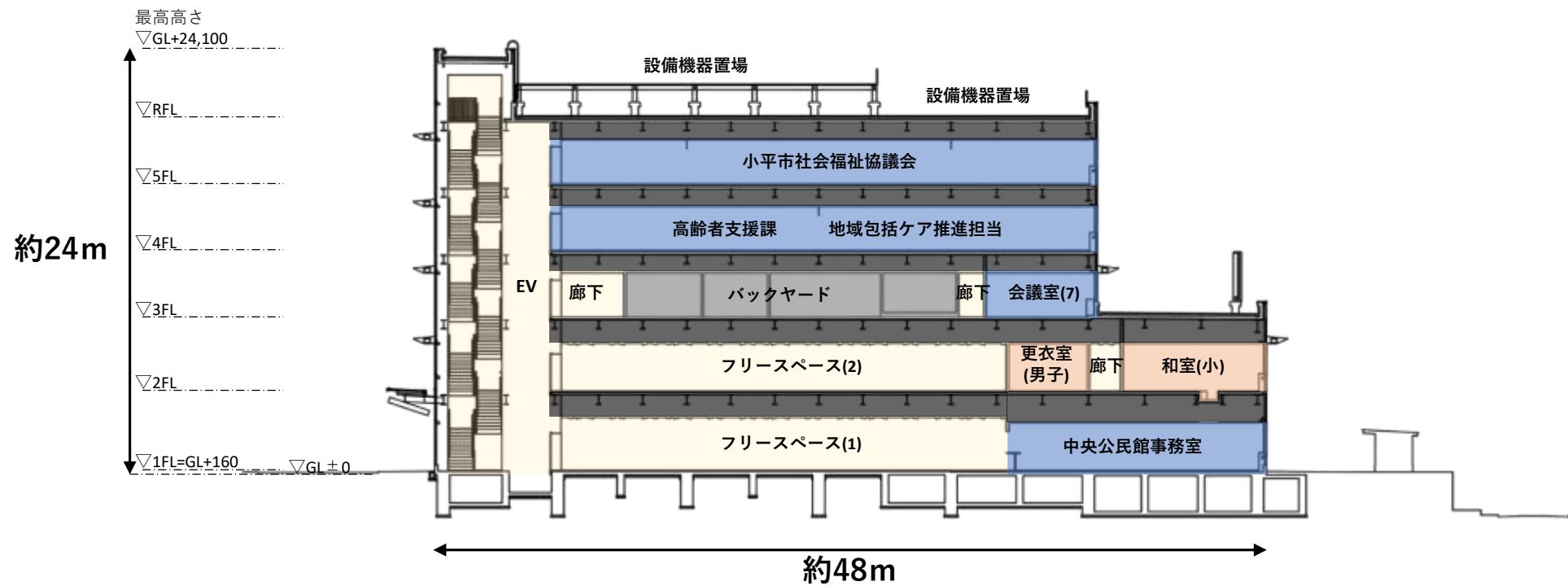
（5階）

- ・相談先を迷う方や複合的な相談に対応するため、5階に福祉総合窓口を配置します。
- ・福祉総合窓口は小平市社会福祉協議会及び市の福祉部署と近接配置にすることで円滑な事務を行えるよう配置します。
- ・4階と同様に、エレベーターから直線上に廊下を配置してフロア全体を見渡せるようにするとともに、わかりやすいサイン表示にすることにより、迷うことなく目的の窓口が把握できるようにします。
- ・4階と同様に、執務空間は柱を少なくすることでレイアウト変更を行いやすい計画とします。

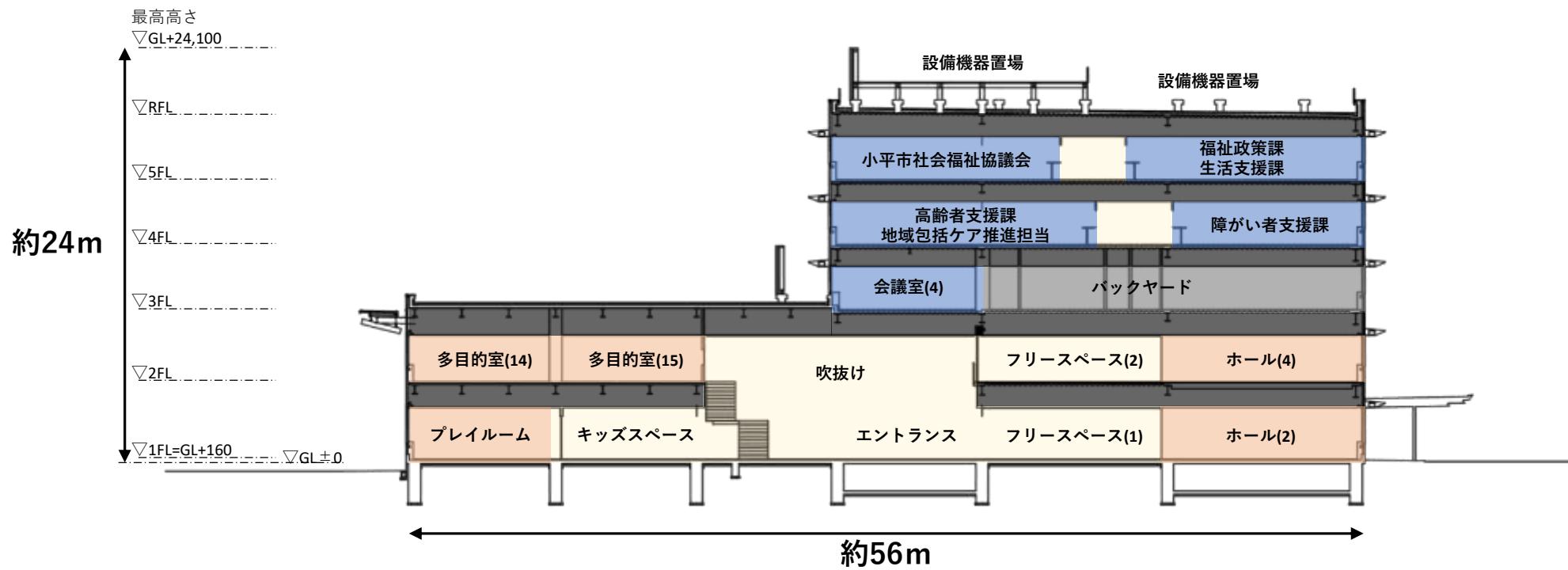
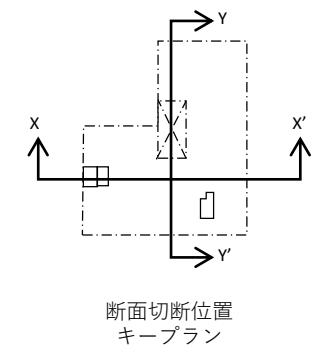
（屋上）

- ・屋上には太陽光パネルを設置し、発電した電気を施設運営に使用することで省エネルギー化に配慮します。
- ・本庁舎が被災した場合を想定し、災害対策本部の代替施設としての機能を備えるため、非常用自家発電設備を設置します。

10.シビック・サイト計画（複合施設断面図）



X-X'断面図

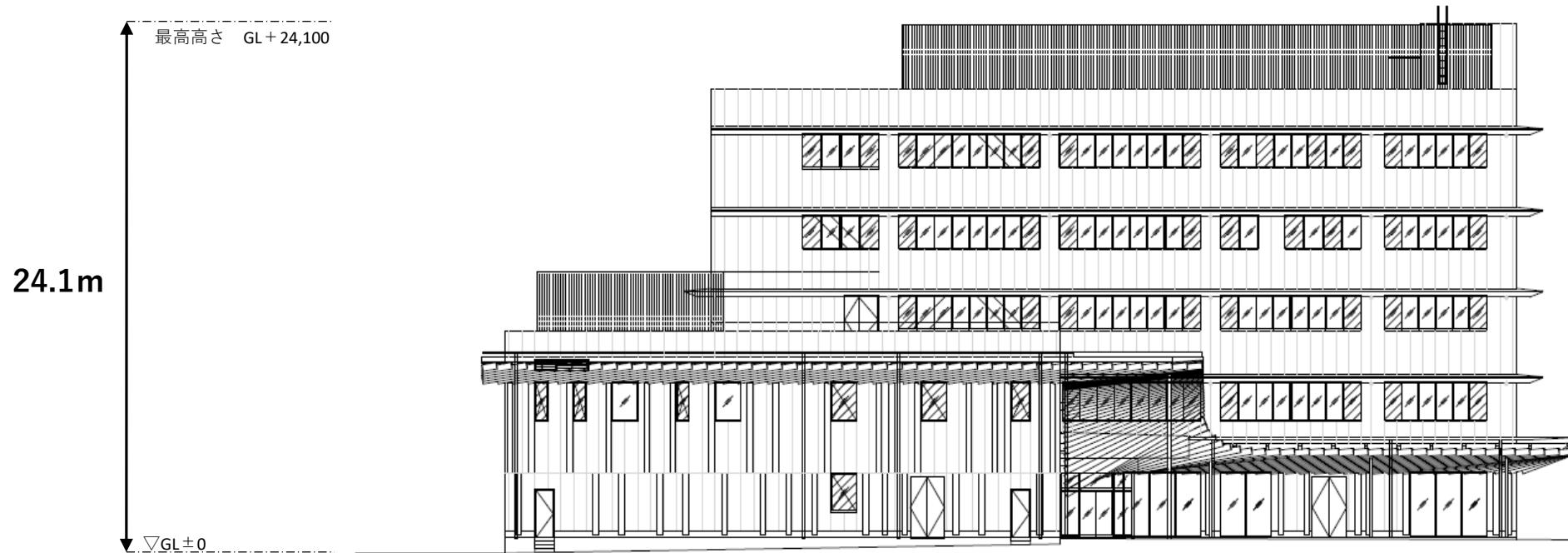


Y-Y'断面図

11.シビック・サイト計画（複合施設立面図）

■周辺環境に配慮した外観のデザイン

周囲に住宅地が隣接しているため、低層部と高層部を組み合わせ、ボリューム感や高さを抑えたデザインとします。
また、ひろばに面した低層部は壁面に木調アルミルーバーを用いて、ひろばに賑わいと暖かみがある印象を持つデザインとします。
低層部の西側は連続したガラス窓を配置し、開放的で明るい室内空間をつくります。高層部はシンプルなデザインとします。



北立面図

ひろばとたかの街道に面する北側には、壁面の木調アルミパネルと、雨除けになり、こもれびを生む木調アルミルーバーとガラスの大庇を一体的に作り、暖かい印象を与えるデザインとします。



南立面図

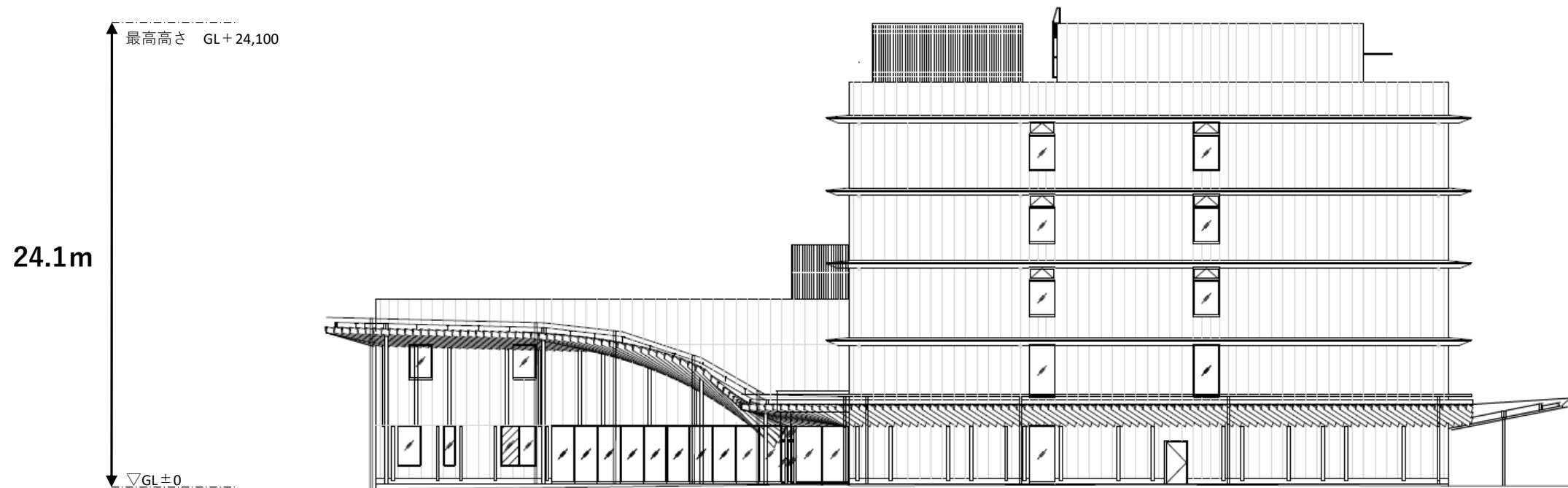
駐車場のある南側のエントランスや車椅子専用駐車区画に、雨除けの大きな屋根を設置します。
東側には低層住宅地が近くにあるため、ボリューム感を抑えるように、低層部を設けます。

11.シビック・サイト計画（複合施設立面図）



東立面図

東側は1階の窓面積を極力少なくするなど、周囲に配慮してシンプルなデザインとします。



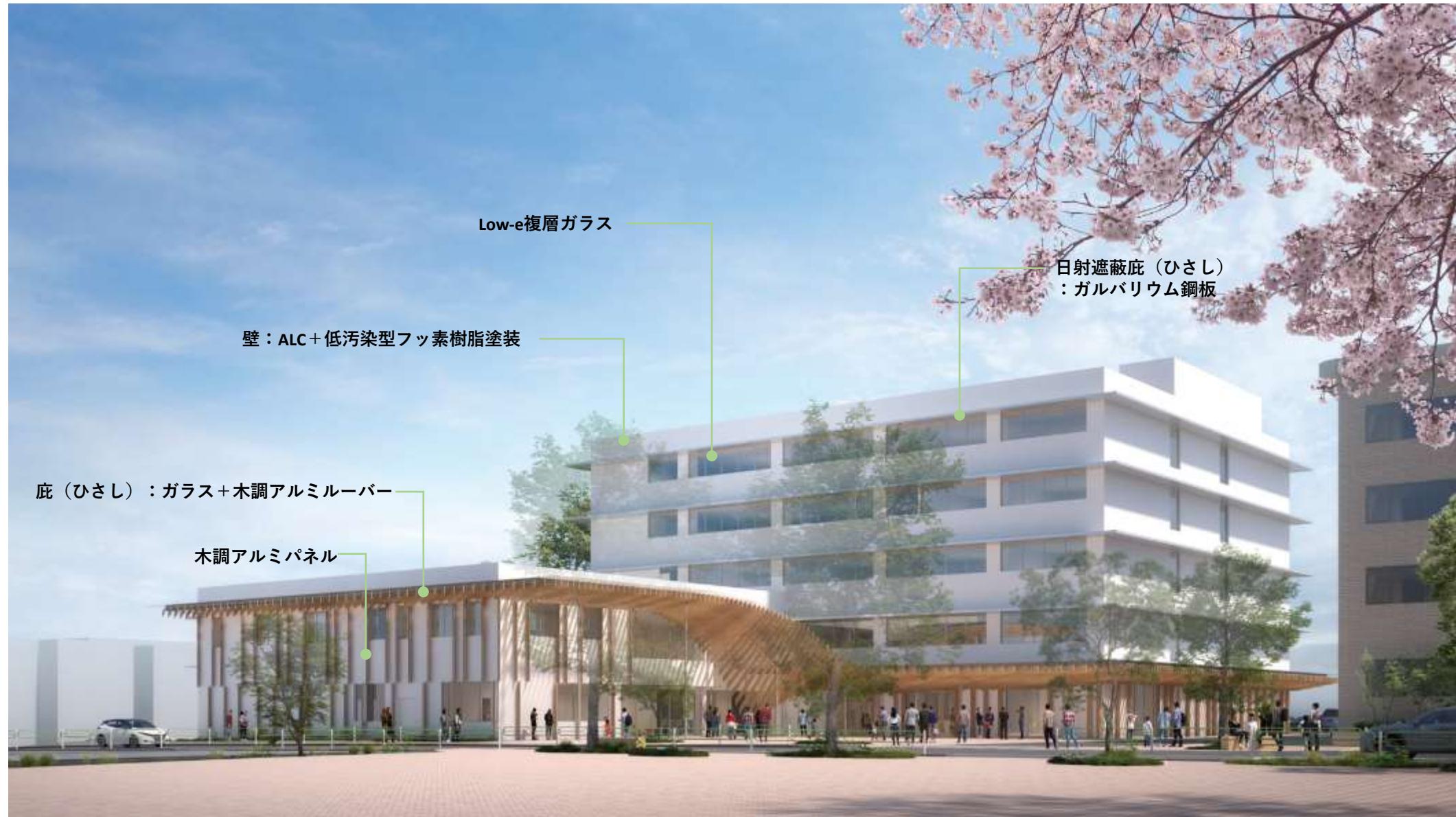
西立面図

低層部はひろばに面した開放的なガラス張りとしします。駐車場に抜ける通路には木調アルミルーバーを施した大きな庇をかけて、温かみのあるデザインとします。

12.シビック・サイト計画（複合施設外観）

□基本コンセプト

周辺環境と調和し人々が利用しやすい施設となるよう、白を基調とし木調を取り入れた明るく親しみやすい外装計画とします。
また、庇（ひさし）やルーバー、断熱性の高いガラスや外壁材の組み合わせによりZEB Ready 実現を目指します。



景観と調和する『屋敷森ファサード』

ひろばに面した低層部は、木調アルミパネル張りの外壁と、ガラス+木調アルミルーバーの大庇（おおひさし）の組み合わせによる『屋敷森ファサード』が、強い日差しや雨を遮り、半屋外の公共空間における市民活動を可能とします。

※農家が多かった頃の青梅街道沿いなどでは、強い風をよけるために家のまわりに背の高いけやきやかかしなどの樹木が植えられていて、遠くから見ると森のように見えたことから「屋敷森」と呼ばれていました。

※建設後の維持管理費などを考慮し、屋外には木材は使用せずに、木目のデザインを施したアルミ製のルーバーやパネルを使用します。

外壁には汚れが付着しにくく耐久性の高い塗料を採用することで、劣化による改修の頻度が少なくなるよう配慮します。

13. シビック・サイト計画（複合施設内装）

□基本コンセプト

木材を使った温かみのあるデザイン

天井や家具に木材を用いることで、温かみのある内装とします。



利用者を迎える2層吹抜けの開放的なエントランスロビー

- ・2層吹抜けを設け、目的の行先が一目で見渡せる開放的で分かりやすい玄関とします。
- ・利用者から分かりやすく、かつ1階全体を見渡せる位置に総合案内を配置します。



多世代交流を促進する憩いの場となる1,2階のフリースペース
立ち寄りやすい1、2階に打合せ、休憩、飲食、学生が勉強する場など多世代が気軽に集い交流する場としてフリースペースを配置します。



講演会や発表会で利用しやすいステージ付きのホール（1階）
1階には木のぬくもりが感じられるホールを設置します。

※パースはイメージですので実際と異なる場合があります。

14.ユニバーサルデザイン計画

高齢者や障がい者を含めた全ての人が建築物その他の施設について円滑に移動し、快適に利用できるようにするため、バリアフリー法や福祉のまちづくり条例などにに基づき、以下の視点を踏まえて計画しました。

- ① だれもが同じように施設や設備を利用できる
- ② 利用者の知識や能力、状況に関係なく容易に施設や設備を利用できる
- ③ 特別な注意を払わなくても、安全・安心に施設や設備を利用できる
- ④ 使い勝手よく施設や設備を利用できる（利用しやすいスペース、自然な動作での利用）
- ⑤ 気持ちよく施設や設備を利用できる（心地よい素材や色使い、周囲との調和等配慮）

（主な配慮事項）

・ 駐車場

車椅子専用駐車区画(5台)及び思いやり駐車区画(3台)を設け、バリアフリー法等の設置基準以上の台数を確保します。

・ バリアフリースイートイレ

障がい者等に必要の個別機能トイレを分散配置する「バリアフリースイートイレ」(高齢者障害者等用便房)を設置するとともに、異性の親子なども使用できる、ジェンダーフリーにも配慮した計画とします。

・ 授乳室

乳幼児連れの来館者にも配慮し、1Fに授乳室を設置します。

・ 児童用トイレ

1Fプレイルームに児童用トイレを設置することで、必要な際にすぐに利用できる計画とします。

・ エレベーター

上階へのアクセスのため利用者用のエレベーターを2台設置することで階段を利用しなくても上階へアクセスできる計画とします。

エレベーター内部については福祉のまちづくり条例に基づいた仕様とします。また、ボタンは浮き文字仕様にし、点字や音声による案内をするとともに、聴覚障がい者の方への配慮として聴覚ボタン(非常時に音声だけでなくモニターに案内を表示するボタン)を設置します。

・ 誘導

法令上必要な「入口から総合案内窓口までの誘導」だけでなく、より使いやすいよう敷地から建物への入口、エレベーターホールやバリアフリースイートイレ及び男女トイレまでの動線、入口から館内において視覚障がい者の方でも気軽に利用できるよう誘導ブロックを設置します。誘導ブロックは特殊な仕様にはせず、JIS規格仕様とします。

また、建物の出入口及び男女トイレの前には音声誘導を導入します。

サインについてはトイレ内の手洗いや便器の位置、オストメイト等の位置が分かるよう触知案内板を設置します。

聴覚障がい者への配慮として、トイレ、更衣室に光警報装置(火災発生時に光の点滅で警報を知らせる設備)を設置します。

・ 内装

壁と床、階段など弱視者等に分かりやすいよう色彩を配慮します。

車椅子や高齢者の来館を想定し、段差をなくしたフラットで歩きやすい床とします。

15.サイン計画

■誰もがわかりやすいユニバーサルデザイン

- ・施設全体のサイン形状・記号・書体・色彩などデザインを統一し、来館者が認識しやすく目的の場所に誘導されやすいデザインとします。
- ・周辺案内、施設案内、建物案内、各諸室内へと、案内内容を階層的に構成し、来館者を円滑に誘導するサインシステムとします。
- ・サインに表記される言語は様々な外国人に配慮したわかりやすい言語対応とともに、直感的にわかりやすいピクトグラム（絵文字）の併用により国際化に対応した表記を行います。
- ・弱視者や色覚多様性のある人等に配慮し、色による区分と文字・数字・点字を併用し認知しやすいデザインとします。
- ・総合案内を1階の視認性の高い位置に設け、サインや触知案内板（ハード）と有人案内（ソフト）の双方向からのサポートにより、わかりやすい施設案内を行える計画とします。

■敷地一体で分かりやすく統一されたサイン計画

- ・まちや周辺の各施設等への案内・誘導を行うため、経路を把握するために手がかりとなる建物案内サイン及び誘導サインを歩道やひろばなどに設置します。

■デジタルサイネージによる情報発信

- ・デジタルサイネージを活用し、市政情報、イベント情報などの情報発信を行う計画とします。

■フォントとグラフィック

- ・視認しやすさを最優先としたフォントを選定します。ピクトグラムはJIS規格を基本とします。

あいうえお アイウエオ
かきくけこ カキクケコ

例) BiZ UD Gothic



案内
Information



男性
Men



女性
Women



障害のある人が
使える設備
Accessible facility

JIS規格のピクトグラム

建物外部			建物内部		
①周辺案内サイン	②建物案内サイン・誘導サイン	③施設名称サイン	④総合案内サイン	⑤各階案内サイン誘導サイン	⑥各諸室内・窓口サイン
<p>周辺のエリア情報を案内する。</p> <p>■周辺案内サイン</p> <p>エリア内の主な建物一覧</p>	<p>施設受付・駐輪場（駐車場）の方向、入り口などを案内する。</p> <p>■受付等案内サイン</p> <p>■駐輪場利用案内サイン</p> <p>■誘導サイン</p>	<p>建物名称・入口・駐車場の位置、アクセスを案内する。</p> <p>■施設名称サイン</p> <p>(仮称)中央エリア複合施設</p> <p>■駐輪場・駐車場名称サイン</p>	<p>建物の用途、全諸室構成・フロア情報を案内する。</p> <p>■総合案内サイン</p> <p>■デジタルサイネージ</p>	<p>フロア内の用途、部局、窓口、室名を案内する。</p> <p>■フロア案内マップ</p> <p>■窓口案内サイン</p> <p>■トイレ誘導サイン</p> <p>■避難経路サイン</p>	<p>窓口室名を案内する。</p> <p>■受付・室名サイン</p> <p>■ピクトサイン</p>
<p>※パネルの組み換え、マグネット着脱式、印刷物の差し込みなどを利用し、組織改編などに対応できる可変性に優れたサイン計画としました。</p>					
<p>⑦規制・イベント情報掲示板・広報サイン</p>					
<p>公告板・広報 ■外部自立告知板</p>			<p>広報・安全・規制、イベントを告知する。 ■デジタルサイネージ</p>		

16.バリアフリー機能

■各階トイレの機能分散について

以下の方針に基づき、複合施設全体で使いやすいトイレ配置としています。

□複合施設トイレレイアウト方針

- (1) バリアフリートイレは各階に1つ設置する。
- (2) 3、4、5階の閉庁時の使用できない場合に備えて1、2階で機能分散の機能が足りるようにする。
- (3) 機能分散の考え方は、車椅子使用者が利用できるとともに、オストメイト機能、乳児用機能を分離し、それぞれに適切な設備を導入する。

バリアフリートイレの機能分散配置について

5F	男女共用トイレ 車椅子対応
4F	男女共用トイレ 車椅子対応 オストメイト ベビーベッド
3F	男女共用トイレ 車椅子対応
2F	男女共用トイレ 車椅子対応 オストメイト ベビーベッド
1F	男女共用トイレ 車椅子対応 オストメイト ベビーチェア 大型ベッド

凡例

男女共用トイレ	ベビーベッド
車椅子対応	オストメイト
ベビーチェア	大型ベッド

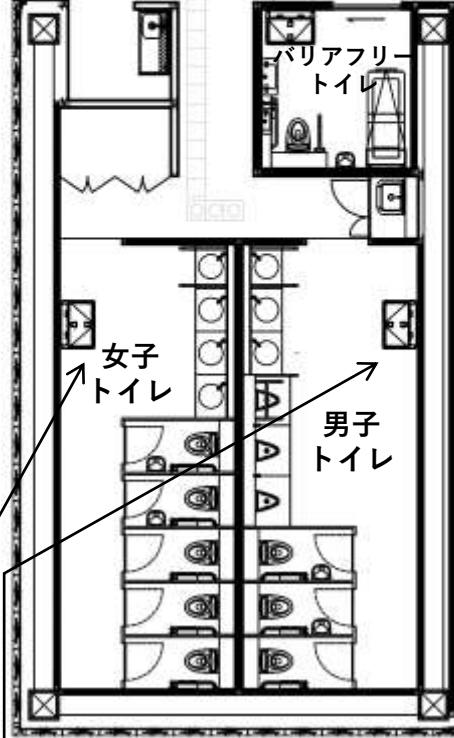
※1・2階男女トイレ内にもベビーチェア及びベビーベッドを設置します。

トイレレイアウト

2Fバリアフリートイレ詳細図



1Fバリアフリートイレ詳細図



1F・2Fトイレ詳細図

■外部からの複合施設への誘導について

北側道路、健康センター、車利用でのアプローチに配慮し、各所わかりやすいサイン・誘導ブロックの配置を行います。また、出入口には音声案内装置を設置します。



ア 車両誘導サイン

駐車場入口・構内の車両進行方向を示すサインを車から見やすい高さに設置します。わかりやすい誘導をすることで、歩行者の安全を確保します。

イ 建物誘導サイン

施設利用者がわかりやすいように、各施設の方向や入口等を案内するサインを敷地出入口付近に設置します。

ウ シビックサイト案内マップ

入口・駐輪場位置等を示すサインを視認性の高い位置に設置します。

エ 車椅子専用駐車区画サイン

車椅子専用駐車区画を示すサインを車から見やすい位置に設置します。

オ 複合施設入口サイン

音声案内
複合施設各入口には施設名を記載したサインを設置します。また、必要な方にお知らせができる音声案内装置を設置します。

■エレベーター

エレベーターまでのアプローチは、視覚障がい者に配慮し、誘導ブロックを配置します。設置するエレベーター2台ともストレッチャーをいれることができるエレベーターを採用します。

■駐車場

車椅子専用駐車区画は複合施設南側出入口の近くに配置します。

17.構造計画

■構造計画

<目的>

耐久性とコストを両立する合理的な構造や効率的な耐震安全性の確保、将来のプラン変更に対応したフレキシブル性の実現を目指した計画とします。

合理的な構造

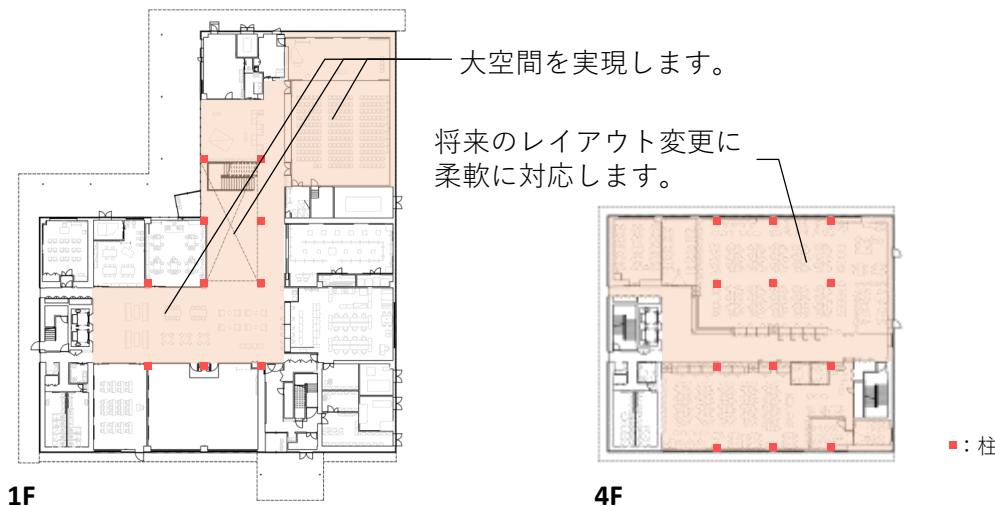
- ・鉄骨造により軽量化することで杭や基礎の負担を大幅に軽減し、コスト削減を図ります。
- ・鉄骨造の設計において、平面的にも立面的にもバランス良い架構となるよう配慮することで大地震時や強風時の応力集中による損傷を防ぎ、長寿命化に配慮します。

効率的な安全性の確保

- ・複合施設はホールや執務空間など広々とした部屋を必要とするため、鉄骨造を採用することで柱のスパンを長くし、柱や梁を効率的な大きさとしることができ、大空間化を可能とします。

プラン変更に対応したフレキシブル性

- ・鉄骨造により効率的なスパン拡張と耐震要素の集約を実現します。
- ・耐震壁や筋交いをできるだけ少なくし、計画段階や将来的なレイアウト変更に対応できる計画とします。
- ・低層階はバックヤードに耐震要素を集約することで、エントランス周囲のフレキシブル性を確保します。
- ・高層階は室内側に耐震要素を設けない外殻とすることで、将来的な執務空間のレイアウト変更にも高い柔軟性を持つことが可能となります。



主要構造概要

構造規模	階数：地上6階
基礎形式	鋼管杭工法による杭基礎
構造種別	鉄骨造
構造形式	ブレース付きラーメン構造

耐震設計方針

複合施設は災害応急対策活動に必要な施設であるため、官庁施設の総合耐震・対津波計画基準（平成25年制定）で定める耐震安全性の目標の分類は、以下の**I類**を適用します。

分類	耐震安全性の目標	大地震時の層間変形角 ※1	重要度係数 ※2
I類	大地震動後、構造体の補修をすることなく建築物を使用できることを目標とし、人命の安全確保に加えて十分な機能確保が図られている。	1/200	1.50
II類	大地震動後、構造体の大きな補修をすることなく建築物を使用できることを目標とし、人命の安全確保に加えて機能確保が図られている。	1/200	1.25
III類	大地震動により、構造体の部分的な損傷は生じるが、建築物全体の耐力の低下は著しくないことを目標とし、人命の安全確保が図られている。	1/200	1.00

参考文献：官庁施設の総合耐震・対津波計画基準及び同解説

※1：層間変形角とは、建築構造物が地震による水平力を受けた際に生じる変形のこと、定められた制限値以下とします。

※2：重要度係数とは、建物の用途や重要度に応じて地震に対する強さを向上させるための割増係数として設定するものです。

なお、重要度係数**1.50**とは、建築基準法で規定する構造計算において標準的な建築物の**1.5倍**の水平耐力を見込むものになります。

18.環境計画

- 自然エネルギーを積極的に活用し、環境負荷を抑えます。
- 建物の断熱性を高め、高効率機器を採用することで設備機器のエネルギーを抑えます。

■環境配慮計画の考え方

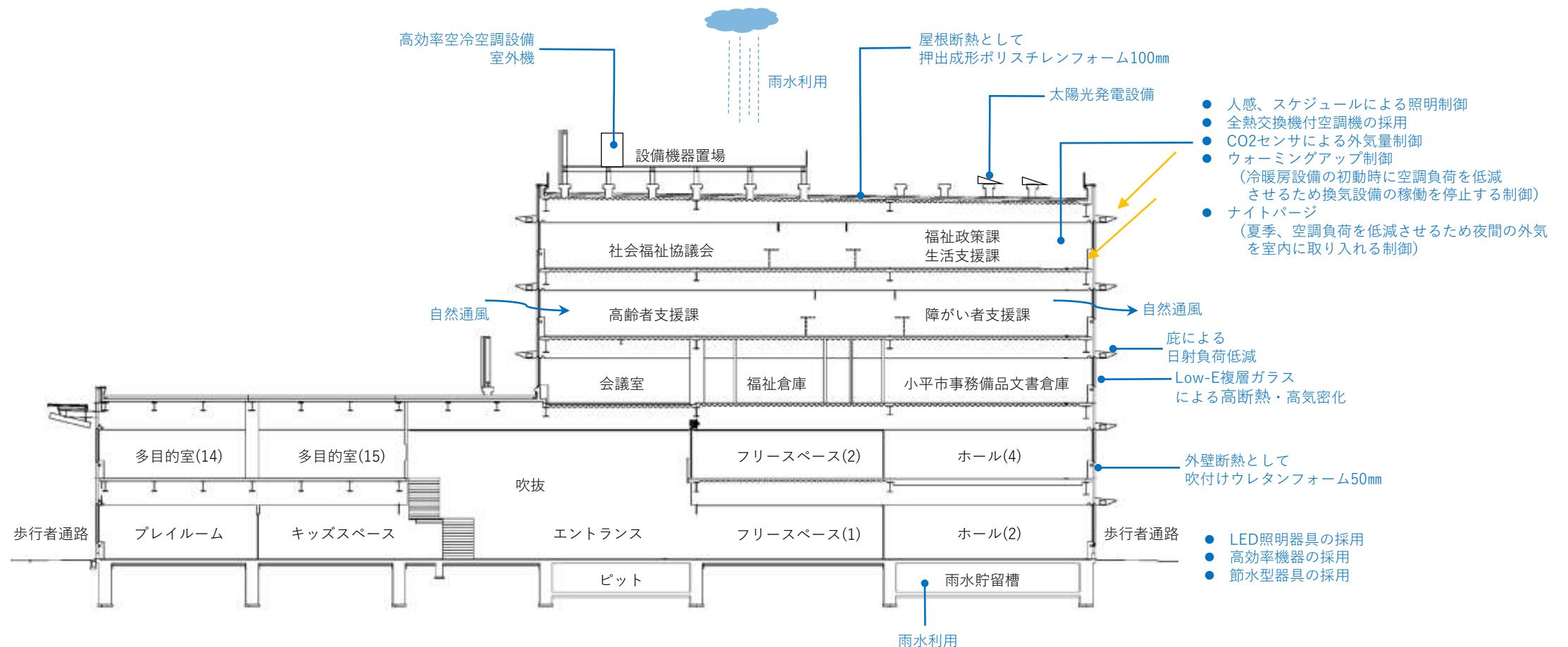
- 屋上には太陽光発電設備を設置可能な範囲に最大限設置し、太陽エネルギーを活用します。
- 外壁、屋根に断熱材などの環境配慮型建材を使用するほか、窓にはLow-e複層ガラスを使用し、熱負荷の低減を図ります。
- 庇を設置し、日射負荷の低減を図ります。
- 高効率室外機（高COP型）を採用することで、環境に配慮し、CO2排出の低減を図ります。
- 照明器具は省エネルギーで環境負荷の少ないLEDを採用します。
- 屋上で集水した雨水をトイレ洗浄水に使用し、水資源の有効利用を行います。
- 水栓やトイレ洗浄弁に節水器具を採用し、水資源を節約します。

■ ZEB Readyの認証取得（予定）

- 小平市地域エネルギービジョン（見直し版）に基づきZEB化の検討を行った結果、一次エネルギー消費量を基準値より51%削減（※自主評価）し、ZEB Ready認証を取得する予定です。

（ ）
 ・ ZEBとはNet Zero Energy Buildingの略称で、快適な室内環境を実現しながら、建物で消費する年間の一次エネルギーの支出をゼロにすることを目指した建物のことです。
 ・ ZEB Readyとは、再生可能エネルギーを除き、基準一次エネルギー消費量から50%以上の一次エネルギー消費量削減に適合した建物のことです。認証は省エネルギー性能表示（BELS等）の評価となります。

※ 実施設計図の内容に基づいた自主評価であり、今後BELS認証を受ける予定です。なお審査に伴い、数値に変更が出る可能性があります。



環境配慮項目模式図（西側より）

19.防災計画（災害対策）

- 本庁舎が被災した場合の災害対策本部の代替施設として、安全性・耐震性を確保します。
- 災害対策拠点として、有事の際の機能維持に必要な対策を講じています。
- 主要設備機器は屋上配置とし、浸水リスクに備えます。

■地震対策

- 耐震性能は建築基準法で求められる一般的な性能よりも高い性能とし、大地震直後から使用できるようにします。

※「官庁施設の総合耐震・対津波計画基準」で定める耐震安全性の目標のⅠ類を適用

- 設備機器及び配管についても耐震安全性を確保し、地震災害時にも機能を維持します。

■災害時のBCP対応方針

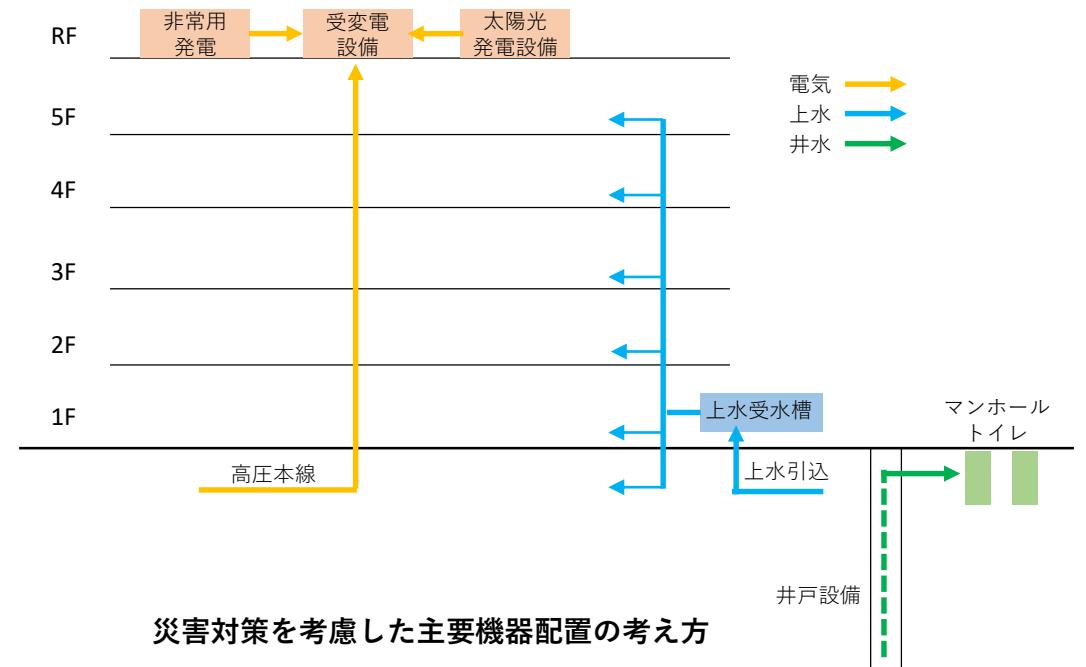
- 電力インフラが万が一途絶した場合でも、バックアップ対策を図り、72時間（3日間）災害対応業務を継続できる計画としています。
- 太陽光発電設備により、災害時のエネルギーバックアップの強化を図ります。

■設備計画における対策

- 受水槽には緊急遮断弁を設け、地震時に受水槽内の上水を確保します。
- 公共下水道が破断した場合に備え、マンホールトイレを設置する計画としています。
- 井戸設備は非常用自家発電設備の電源にて稼働可能とし、マンホールトイレ洗浄水として供給する計画としています。
- 停電時に対象の空調機に電源供給し、災害時の施設内環境に配慮する計画としています。

■浸水対策

- 複合施設計画地はハザードマップ上、浸水の心配のない地域です。
- 万が一の浸水リスクに備え、主要設備機器を屋上に配置し、安全性を高めます。



災害対策を考慮した主要機器配置の考え方



災害時（停電時）電源供給エリア想定図

20.電気設備計画

- 非常用自家発電設備は非常用ディーゼル発電機とし、停電時の電源供給を図ります。
- 太陽光発電設備を設置し、CO2削減に寄与します。
- 受変電設備は浸水により機能を消失することなく、災害停電時にも機能を維持することに配慮し、建物屋上に配置します。

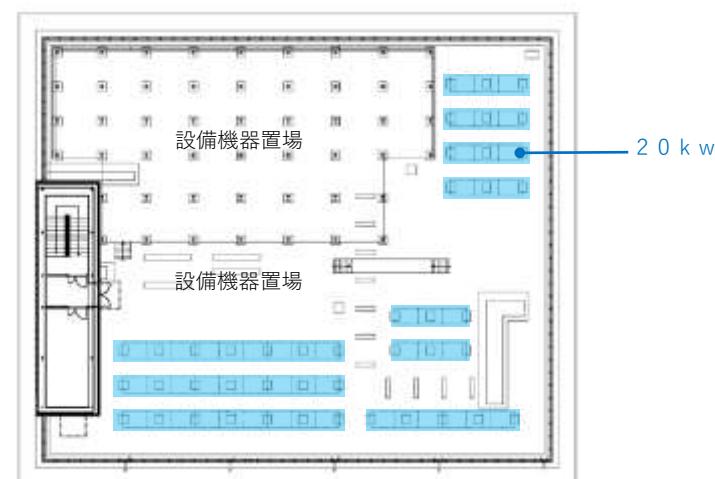
■電気設備概要

設備名称	設備概要
電力引込	高圧6.6 k V
受変電設備	キュービクル式受変電設備 真空遮断機 (VCB) モールド式変圧器 変圧器設備容量 1150 k VA(单相:150 k VA、三相:1000 k VA)
自家発電設備	エンジン 空冷ディーゼル発電機 運転時間 72時間 燃料 A重油 1950L 屋外パッケージ式 設置場所 屋上設備スペース
太陽光発電設備	発電容量 20kw
雷保護設備	新JIS、建築基準法に基づく
幹線・動力設備	单相電源 200/100V EM-CETケーブル 三相電源 200V EM-CETケーブル
電灯設備	電源 单相200/100V 照明器具 LED照明器具 照明制御 人感制御、スケジュール制御 設計照度 JISの照度基準に準拠
非常照明・誘導灯設備	電池内蔵型
コンセント設備	電源 单相200/100V
電気自動車用充電設備	駐車場 (庁用車用) 普通充電コンセント : 1台 駐車場 (利用者用) 急速充電器 (予定) : 1台

設備名称	設備概要
拡声設備	非常放送兼用型
自動火災報知設備	R型受信機、アナログ式感知器 (自動試験機能付)
誘導支援設備	インターホン設備 トイレ呼出設備 (バリアフリートイレ) 音声誘導設備 (建物出入口、各階トイレ出入口) 光警報装置 (各階トイレ、バリアフリートイレ、男女更衣室)
その他	構内情報通信網設備 構内電話交換設備 映像・音響設備 防犯カメラ設備

■太陽光発電設備について

- 屋上に20kwの太陽光パネルを設置し、施設機能維持に活用しCO2削減に寄与します。
- 電力インフラ途絶時にも太陽光発電電力を有効に活用できる計画とし、災害時のエネルギーバックアップの強化を図ります。



屋上太陽光パネルレイアウト

21.機械設備計画

- 設備機器の維持管理及び更新に配慮し、使い勝手の良い汎用機器を採用します。
- 省エネルギー及び、災害時の事業継続性に配慮します。

■空気調和設備概要

- 高効率室外機（高COP型）を採用することで、環境に配慮し、ランニングコストの低減を図ります。
- 一般居室の換気設備には全熱交換器ユニットを採用し、空調機器の外気負荷の低減を図ります。
- 設備機器は汎用性がある機器を採用し、更新のしやすさに配慮します。

設備名称	設備概要
熱源設備	電気熱源空冷ヒートポンプパッケージエアコン
空気調和設備	利用室等：パッケージ空調方式（天井隠蔽） +直膨コイル付全熱交換器 事務室等：パッケージ空調方式（天井カセット） +直膨コイル付全熱交換器 サーバー室：パッケージ空調方式（天井隠蔽）
換気設備	第1種換気方式、第3種換気方式 全熱交換器もしくは換気ファンによる換気
排煙設備	地上1, 2階：機械排煙 地上3, 4, 5階：自然排煙
省エネルギー手法	窓の開閉による自然換気 ウォーミングアップ制御 ナイトパージ CO2センサーによる外気量制御

■給排水衛生ガス設備概要

- 給水は上水、雑用水（トイレ洗浄水）の2系統とします。
- 上水受水槽には感震器及び緊急遮断弁を設け、地震時に配管が破損した場合でも貯留されている水を利用できるように災害時用水栓を設けます。
- 雨水は貯留・処理してトイレ洗浄水として利用する計画とします。
- 外構には貯留型マンホールトイレを設け、公共下水道が機能停止した場合でもトイレ利用を可能とします。

設備名称	設備概要
給水設備	引込：敷地東側の上水本管から新設として50Aを引き込む 上水：地上の上水受水槽（15m ³ ）から加圧給水方式（非常電源対応）にて供給 雑用水（雨水）：雨水貯留槽からろ過装置を介して雑用水槽（地下ピットを利用・55m ³ ）に貯留し、加圧給水方式（非常電源対応）にてトイレの洗浄として供給 井水：雑用水槽の補給、マンホールトイレの洗浄水として供給（非常電源対応）
給湯設備	手洗い・流し台：貯湯式電気温水器 キッチンスタジオ・工芸室：潜熱回収型ガス給湯器
排水設備	公共下水道放流（東側道路の下水本管に接続） 建物内：汚水・雑排水合流 屋外：生活排水・雨水分流 屋外マンホールトイレ：6基
都市ガス設備	都市ガス(13A)供給地域 低圧ガス引込：50A
衛生器具	節水型衛生器具（中水対応洗浄弁）
消火設備	スプリンクラー設備（1, 2階） 屋内消火栓（3, 4, 5階） 連結送水管（3階以上） 消火器設備（全館） 消火水槽（地下ピット：有効18m ³ 以上）
雨水利用設備	屋根降雨水を雑用水利用

22.パーク・サイト計画

① 自転車が本庁舎南側通路からひろばに進入しないように、ひろばの北側に低めのロープ柵を設置し、歩行者の入口を設置します。

② 西側通路は、歩行者優先（自転車徐行・バイク不可）とし、歩行者やひろば利用者の安全に配慮します。

③ 小さい子どもが西側通路に飛び出さないようにするため、低木植栽を設けます。

④ 子どもにとっても魅力的なひろばとするため、複合遊具を設置します。



⑤ 車椅子利用者にも配慮した水飲み場、手洗いを設置します。

⑥ たかの街道沿いにある桜は老木化しているため、安全に配慮し、伐採して新たに桜を植えます。なお、線路に近いところにある桜は状態が良いため、残します。

⑦ 憩いの場となるようにベンチを複数設置します。

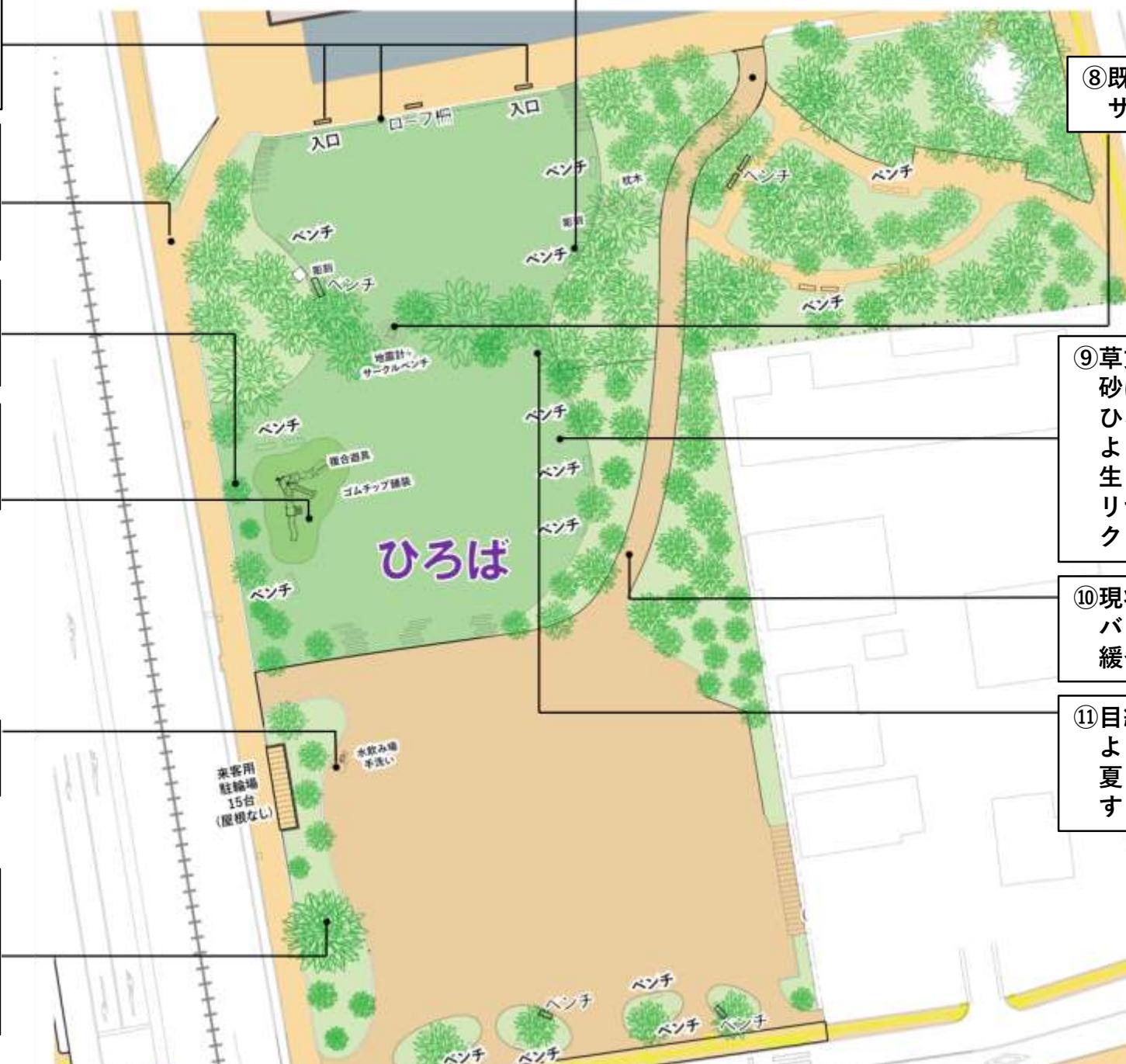
⑧ 既存の地震計（約1.0m四方）の周囲にサークルベンチを設置します。



⑨ 草丈が低い植物が地表面を覆い、砂ぼこりが立たず、身体に優しいひろばにします。メンテナンス(養生)による使用できない期間ができるだけ生じないように配慮し、小平市リサイクルセンター広場と同様にクローバー等の草地とします。

⑩ 現状の地盤面に高低差がありますが、バリアフリーに配慮し、整備後は緩やかな勾配にします。

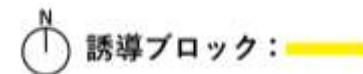
⑪ 目線レベルで見通しが確保できるように既存の樹木を一部伐採します。夏は樹木により木陰となり、冬は落葉するため、陽だまりになります。



<パーク・サイトの整備内容について>

事業費の高騰を踏まえ、パーク・サイトに予定していた別棟建設は中止します。これに伴い、パーク・サイトは令和8年度末を目途に整備内容の検討・調整を行うため、上記の計画は変更の可能性があります。

令和元年度に策定した基本計画では、健康福祉事務センター跡地について、レクリエーション、交流、イベント等、柔軟に利用できる多目的エリアとして整備することとしており、これまでの設計の過程でいただいた意見等も踏まえて、様々な用途に利用できる交流とにぎわいのエリアになるよう整備案を検討していきます。



23.カルチャー・サイト計画

①たかの街道の混雑防止のため、駐車場の出入口を敷地北側へ設置します。

②安全性と利便性に配慮し、駐車場から図書館の入口までの通路をつくります。

③ひろば内は歩行者専用とします。

④中央図書館北側のケヤキは、過去に枝折れ等による危険があったため、今後の安全性に配慮し、伐採します。

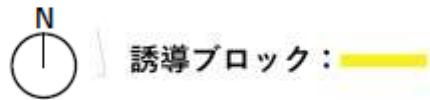
⑤中央図書館やひろばの利用者に配慮し、駐輪場を図書館の北側に加え、東側にも配置します。

⑥情報板等を撤去（一部移設）し、カルチャー・サイト、パーク・サイト双方の活動が感じられ、互いに興味・関心をもてるように見通しを確保します。

⑦こだいら名木百選のケヤキに向かい、テーブルやベンチを設置して、憩いの空間とします。

⑧ひろば内に設置するベンチの横に、車椅子利用者が滞在できるスペースを確保します。

⑨交差点付近に出入口を設け、ひろばに入りやすくします。



誘導ブロック：



民間活用検討予定地

【民間活用検討予定地の方向性】

- ・中央公民館の跡地（約4,200㎡）については、民間事業者への土地の貸付を行う計画としています。
- ・民間活用予定地内の桜は老木化しているため、安全に配慮し伐採しますが、3つのサイトに分散して新たに桜を植えます。
- ・民間活用予定地内のケヤキのうち、老木化しているものは伐採しますが、中央公民館の解体工事や民間活用時の支障にならないものは残します。

【新たに植える桜】

令和6年10月に、新たに植えたい桜の品種を選ぶ市民アンケートを実施しました。

以下の5つの桜の品種について、票数に応じた本数を3つのサイトに分散して植えます。

1位	ジンダイアケボノ	159票	⇒ 5本
2位	シダレザクラ	126票	⇒ 2本
3位	マイヒメ	109票	⇒ 2本
4位	カンヒザクラ	52票	⇒ 1本
5位	ヤマザクラ	51票	⇒ 1本

ひろばのイメージ



たかの街道や市役所西通りの歩道とのつながりを含めて、段差のない歩きやすい空間とします。